

事務事業調書

平成27年度

事業No	700	課	学校教育課	係	学事係	起案者	鈴木彰
						決裁者	兵藤伸彦
事務事業名	野外センター活用事業				事業種別	施設管理	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 3 学校教育 2 義務教育 3 安全で快適な教育環境 1 安全な環境づくり			予算科目(会計)		一般会計	
				予算科目(款・項・目)		50-5-30	
				総合計画以外の計画			
				関連する総合計画の施策			
				性質区分		市の内部事務事業	
根拠法令	有	安城市野外センターの設置及び管理に関する条例					
法定受託事務	無						
公約・議会答弁	無						
陳情・市民要望	有	校長会要望：作手第2管理棟、衛生面への配慮(毛布・テントの更新)					
実施方法	直営	委託先	行政関連団体				
実施期間	開始	平成元年度	経過	26年目	終了	期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	野外センター利用者(児童生徒及び一般市民)が			~になる	快適かつ安全に、利用することができるようになる。	
事務事業の内容	平日は市内小中学校の自然教室事業を実施し、土曜・日曜日を中心に一般個人・団体が野外センターを利用します。						
改善・対策の履歴	学校、利用者の要望をもとに施設修繕を実施しています。 平成25年度は、作手高原野外センター屋外炊事場の、グレーチング(炊事用網)を交換しました。 平成26年度は、作手高原野外センター屋外炊事場の屋根を修理し、茶臼山野外センターの入浴棟熱交換器交換、進入路整備を行いました。 平成27年度は、利用実態にあった目標、実績となるよう成果指標値を利用人数から利用のべ人数に改めました。						

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	25,777	27,206	59,751	50,955	210,945
財源計	23,887	24,686	57,231	48,435	208,425
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	268	198	330	716
	一般財源	23,619	24,488	56,901	47,719
受益者負担金	268	198	330	216	390
職員人件費 (従事職員数)	1,890 (0.30)	2,520 (0.40)	2,520 (0.40)	2,520 (0.40)	2,520 (0.40)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	施設及び設備の管理・保守 点検業務委託	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	委託(一式)	活動の総事業費 (千円)	6,818	7,296	29,876	
			活動にかかるコスト (千円)	6,818.00	7,296.00	29,876.00	
活動2	活動名 (活動内容)	土地借上げ料	見込	82,649.00	82,649.00	82,649.00	82,649.00
			実績	82,649.00	82,649.00	82,649.00	
	指標名 (単位)	借地面積(m ²)	活動の総事業費 (千円)	3,473	3,662	3,662	
			活動にかかるコスト (千円)	0.04	0.04	0.04	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	利用者のべ人数(人)			目標	21,764.00	21,648.00	21,331.00	19,742.00
				実績	21,118.00	20,712.00	20,259.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	未達成	未達成	未達成	
成果2	利用者からの苦情件数(件)			目標	5.00	5.00	5.00	5.00
				実績	0.00	0.00	0.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	野外センターを設置していることで、計画的に小中学生の集団宿泊の行事を実施することが可能となり、年間計画の位置づけの中で、児童生徒が協力して活動を行い、クラスの結びつきを強くすることができます。 また、一般利用では、野外センターで過ごすことにより、家族の絆作りや自然体験のきっかけとなっています。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	【内部取組】・利用者並びに管理人に対する光熱費の削減要請(協力依頼) 【外部要因】・平成26,27年度施設改修による設計及び工事費の増加(-)
成果	【内部取組】・一般利用拡大のための宣伝の実施並びに利用者用ガイドマップの作成 【外部要因】・作手野外センター：本宮山自然公園施設の閉鎖(-)と本宮山スカイラインの無料化(+) ・旅館業法による利用可能期間の短縮(-) ・週末の天候による一般利用への影響(-) ・茶臼山の観光開発(芝桜等)

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
・施設の延命化のためには適切な維持管理を行なう必要があります。また安心して利用できるよう学校の意見をふまえ、作手高原野外センターの改修工事を行ないます。 ・利用者の意見・要望や満足度を把握するため、「ご意見ボックス」の設置を行ないます。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	野外センターの維持管理にかなりの経費をかけているので、一般利用の拡大も重要です。